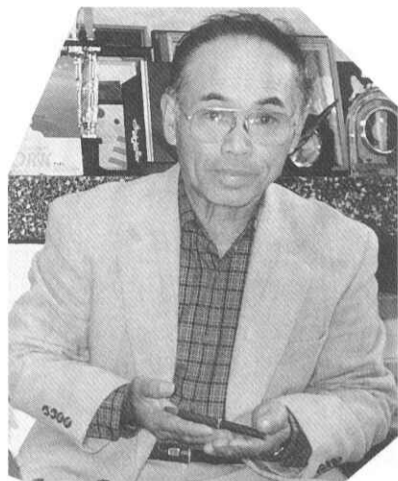


シリーズ 戦没者追悼はこれでよいのか

『戦没者』遺品の遺族 次々に判明

遺品は
宝物
金では買えない

昨年六月沖縄県で五十年近くボランティアで遺骨収集活動を続ける沖縄県那覇市の国吉勇さんの情報を新聞紙上で得た。早速訪問したが、彼は自費で戦争資料館を建てておられた。そこには彼がこれまでに収集した戦没者の遺品数万点が展示してあった。その中に氏名が判別でき、早速調査を行い二月までに戦没者の遺品と遺族が判明した遺品を返還したので紹介する。



遺品の万年筆を手に 長男久男さん、町役場で



国吉勇氏の戦争資料館で国吉勇氏と塩川副理事長



岩手県小林さん宅でご姉妹と肉親

北海道出身の小林和定さん遺品(セルロイド名札)は平成6年3月6日、白梅の塔で国吉勇氏によって発見された。若くして子供さんも無く戦死した和定さんは、岩手県滝沢村に生まれる、甥ごさんのお宅に祭られてあった。引渡しには、和定さんの姉妹もお見えになり、五十七年ぶりの遺品を前に姉妹が再開した様に涙を流されていた。



遺品の定規と壕の土を手に甥の金子さん山形県小国駅

山形県出身の金子巳千衛さん遺品(定規)は平成十三年十月、糸満市照屋陣地壕で国吉勇氏によって発見された。金子さんにも子供さんが無く、ご姉妹がおられたが、十二月二十日山形県小国町は雪の中で自宅まで行くことが出来ず、甥ごさんに小国駅での引渡しとなった。



小林和定さんの遺品は白梅の塔下の壕で発見された

鹿児島県出身の盛重敏彦さん遺品(万年筆)は平成九年一月、浦添市タクシ壕で国吉勇氏によって発見された。盛重さんには長男久雄様が鹿児島県輝北町におられ、父親が大勢の人に見送られ役場から出征された時の様子を当時小学生であった久雄さんは記憶してあった。そして、ある日学校から帰ると母親が泣いており、父親の戦死を知った。引渡しは町のはからいで、盛重さんが出征された町役場で行わせて頂いた。



遺品の認識票と壕の土を手に義姉石坂アキ子さん

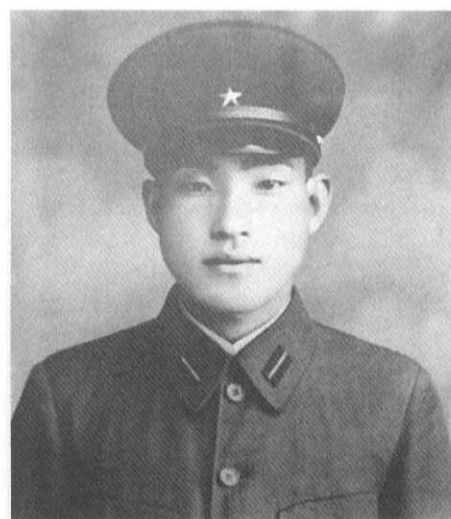
埼玉県	尾崎 侃
石坂辰雄	山梨県
植竹静男	安藤栄吉
落合 實	飯島 誠
小林常信	前田猪八郎
小堀淳三郎	
鈴木欣司	

新しく刻まれた石坂辰雄さん

埼玉県出身の石坂辰雄さん遺品(セルロイド名札)は平成八年八月、具志頭与座壕で遺骨も七体分とともに国吉勇氏によって発見された。石坂氏にも子供が無く、義姉の石坂アキさんに十二月二十一日九段会館でお返しした。石坂氏の名前は当初平和の礎に名前が刻んでないとの事であったが、私どもが追加刻印されているのを、確認してまいりましたので、石坂さん安らかに眠りください。



遺品の万年筆を手に渡辺さん親子



故 渡辺政秋さん

鳥取県出身の渡辺政秋さん遺品(万年筆)は平成十一年一月、摩文仁岳ガマで国吉勇氏によって発見された。渡辺さんは、一人娘美智子さんの出生と同時に出征されたまま戦死された。当時二十歳だった渡辺さんの遺影は若い。戦地からのお手紙を見せさせて頂き、さぞ、生きて帰りがたかっただらうと思うと胸が詰まる。引渡しは美智子さん親子に行いましたが、美智子さんが遺品の万年筆を手にお母様に「生きていて良かったね」との言葉に心打たれた。ここに美智子様の句を紹介する。はるかなる 摩文仁の丘より帰りきぬ 父の形見の万年筆 幾たびの戦火にぬげず 今もなお 父の形見 届きにけり



渡辺政秋さんが戦地から肉親あてのはがき